

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

五音（下）

10.10

4

11

論語三

中庸と其傳也

其土の事

一 蘭曲

是は多岐の曲也其異上へ何ぞ奇佳

位也大く曲付のまうして自れとあり

一 直實はいちぢも曲也其最六世

程の氣傳にありてたふととて位也

祝曲云衣代にありてふととて又て

まわさう曲なるに傳

一 是及よ原家の位なり

志祿の事

古文曲

其のくこの事傳の事なり

又其の事傳にありてふととて

いふかきわたりしきいりあはせとハげんあへんさう

いふて人々や不問は祿らん人ばなるといふ事なり

いふいふもくくらしやのくくもるれもけりけり

さういふしんたじ祿をひらきしとわはれ祿の

いふはをきしききしきさん 祿我ハとといん

いふは()はしちにきしきいしと云ふあきん

いふをきしきしてあしききききんちんはききん

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

いふいふをきしきしきしきしきしきしきしき

月日ちりせぬ

くせのえうゆ そ又曲作者但眼

神ちあにせういしちんをひりたふ
くは六回には神のふおきまに十九日
十三日あせにふおきして以下伊勢物語
ふえんをき(うま)と志のりよ今日たふ
おふ秋の二おあまは海へおとまんくとあま
うまて松花風(う)の波をうこふを御父
あくのきで下赤に示形神をまらんきいり

その歌いして月をさうしふとあまき
くからまお(こ)んきんとしてまがりのきす
存るるにまきまりりりあまきちのんきん
キすちる(ま)とまきいんきんてあまき
まりにまきまりくわ(ま)まき(ま)まきり
まあに(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)
あ(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)
ま(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)
ま(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)まき(ま)

まのゆい...
てん...
い...
お...
上...
く...
か...
な...
い...
そ...
か...
三...
や...
こ...
ス...
い...

い...
い...
そ...
か...
三...
や...
こ...
ス...
い...

てげうとてかたきまきんころきの山かみの月かど
そんえんやうとて月な徳やあてえろれ
歌のいふ日れとむいかにまが

あつちう——篇曲序

又佛日西天より雲ふくればそんれとるのほほい
ふふにふゆあはきいさやまふるよちうそんお
うくえんいふゆきのえめう——そんれとてうこり太子
このつをわいふめおほ氏と——いふはほ布の
せとちう——このつをわいふめいふらめいふらめいふら

らちせあまのなほさくへんてうあてえとめてそんれとて
いふあうこ——いふまきさく右付のそん曲序いふまき
ほ本をえんて女意つ人の佛さうくせ親せるそん
とつたふのほさくへんてうこりこのそんれと
いふまきさくへんてうあてえとめてそんれとて
つ今まらつたふのほさくへんてうあてえとめてそんれとて
本さくせあてえれらういふいふのほさくへん
いふまきさくへんてうあてえとめてそんれとて
のいふまきさくへんてうあてえとめてそんれとて

のいともいふんか〜

おたごい返し

^{五七}廿一 ちやうどんごるの雨まきりよらんごまきり
 此精此精のなすしきまゆくそがふとなくも苦なる
 せいとんやの祈祈のたすはれもりちを社
 神まい心とすしるるに志やどうをいんり
 火をたたくすしめれをいんりてふ神まいぬ
 ろ〜〜とておれりにちやまわいひりしえぬと
 ちや〜〜いんり〜〜とてかかえぬ氣と

うぬるの〜あ〜いぬとわ〜ちや下あ〜ん
 のちい〜ん〜とてよんた〜いあるとち〜ぬぬ
 せいとんやの祈祈のたすはれもりちを社
 まい心とすしるるに志やどうをいんり
 火をたたくすしめれをいんりてふ神まいぬ
 ろ〜〜とておれりにちやまわいひりしえぬと
 ちや〜〜いんり〜〜とてかかえぬ氣と

ほろろをすのこゝまをくろくろくは仏のこゝを
あつゝにうろく大地をうろくろくまをくろく
をうろくすのこゝまをくろくろくまをくろく
らんろくまをくろくろくろくろくろくろく
もろくろくろくろくろくろくろくろく
のろくろくろくろくろくろくろくろく
りろくろくろくろくろくろくろくろく
まろくろくろくろくろくろくろくろく
ろくろくろくろくろくろくろくろく

あしほ

上序

神はあまのこゝろに

あしほ

あしほ

及し繪ふ

何ほい 巻九回曲

神楽社にP(けい)の身之れ玉子は名大和の
こと地神三付よてんやう太神のて下を
代おのここといほとの圓の松たはこつてくまわ
一様なり 出まの川上までいこくする様
り下たさいりうくつんあまをた人父母中に
少女泳いできてるさわたり且とるいふとたつた
の岸の岸をうめこりやうと教てなつらあふはち

いこめさいいひかきまがなしてしうたやうのいま
に(い)をうらうらうらとせまもつていこめをまひ
えさせよそのなんまのす下もゆらうまきまを
たはくわくしてみるこもいひかきまをくつ上やを
たすきまをうらたは度あつてはなまをうら
こもいひかきまをうらして入はるまのいひかき
たまもいひかきまをうらして入はるまのいひかき
のいひかきまをうらして入はるまのいひかき
いひかきまをうらして入はるまのいひかき

袂は肩をちりめぬらん小やとまじり下はな
るる水もどろくは方々くくひをのむる尾
一ふれはたふらふとせむもつ小園土よめい
らんふりせんぬれくらえんくわつお——くさて
をまへるはの門上ひんるたぐいといせく
まのやこのあまよはなほほる赤くはれちやま
かのみ——まへりていん——いん二せ安ふまはい
ち

佐十郎のあはれいし

上
榎が ちのちささるれせりかといひくはあま
まじり袂の代はなれをいひかへんくわつおはら
ちのいりていん——いん五代はあはれはあま
ひんるのむれなまはらむらひ——くさて下
つうくやおものぬるまのわくのみあのお
子のあぢやなほいほりありけりあぢやこのあぢや
このあぢやをまじりていん——いん
いんこのいん——いん(常曲) 兼仁まはる代へん
いんこのいん——いん(常曲) 兼仁まはる代へん

いづれもほいしく大正はかりはけりつひま
そをていめあまのひまや——このおまこころあはれ
さあといひていかにわらう人せうつ——やうアんん
さこのあまのひまや——せうつひまをうらむ心とほ
ひまをたにたうつひまはかりにむくのあまのひま
おまこころをいひまのひまのあまのひまこころ
ひまのあまのひま——ひまをないうてん
つんをむへ——ひまは神勅まこころせはたてや
はかり——たまう上柳ふ——ひまをいひまのひま

おまのひま——ひまをいひまのひまのひまをなう
ていひし——ひまをうてん——ひまをなう
ひまをなう——ひまをなうひまをなうひまをなう
ひまをなうひまをなうひまをなうひまをなう
ひまをなうひまをなうひまをなうひまをなう

太子神曲舞巳火曲是首太子傳神曲舞世作者歟

稿考

おまのひまのひまをいひまのひまをなう

下あまのひまをなうひまをなうひまをなうひまをなう
ひまをなうひまをなうひまをなうひまをなう

今更の書田をうらまひしりてはなほたのこしむるは
こゝ我のうらまひをうらまひしりてはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは

時分利ののびまゝにうらまひたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは
なほたのこしむるはなほたのこしむるは

せふ火

1788
The first of the month of
September was a very
fine day. The weather was
clear and the wind was
from the north. The
temperature was about
70 degrees.

1789

The first of the month of
October was a very
fine day. The weather was
clear and the wind was
from the north. The
temperature was about
70 degrees.

The first of the month of
November was a very
fine day. The weather was
clear and the wind was
from the north. The
temperature was about
70 degrees.

1.
 2.
 3.
 4.

第五曲

第五

1.
 2.
 3.
 4.

1.
 2.
 3.
 4.

Handwritten musical notation on the right page of an open manuscript. The notation is written in a cursive style, consisting of several lines of notes and rests, typical of early printed musical manuscripts.

Handwritten musical notation on the left page of the manuscript. The notation is written in a cursive style, consisting of several lines of notes and rests, typical of early printed musical manuscripts.

凡そ音曲は、喉と以上からする曲は、祈
求と共、教と為書不及我、他首、然、
知、一、在、也

一、古、曲、習、道、の、次、を、文、字、の、中、に、あ、ら、わ、る、所、を、述、ぶ、
ま、は、ら、せ、ら、る、曲、を、こ、の、ま、に、あ、ら、わ、る、所、を、述、ぶ、

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several staves of notes and rests.

由良添前曲舞付曲付曲曲

元帝曲舞曲曲
是初世と文作書

元帝の八人のうち、誰か一人か二人か

Handwritten musical notation on the left page, consisting of several staves of notes and rests.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written on two pages of aged paper, with the right page being the front and the left page being the back. The handwriting is dense and fills most of the space on both pages. The ink is dark, and the paper shows signs of wear, including some staining and discoloration. The text is written in a single column on each page, with some lines starting with a capital letter. The overall appearance is that of a historical document.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written on two pages, with the right page being the reverse side of the left page. The handwriting is dense and fills most of the page area. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

まうねんふしやうのほろろきとめをぬね

ふんのくくゆりま秋とおんがんいとう

ーりふふふふふふふふふふふふふふふふふ

のいはいまふてんてんてんてんてんてんてん

ほろろいお池田のろろろろろろろろろろろ

のふふふふふふふふふふふふふふふふふ

(ふふふふふふふふふふふふふふふふふ)

おろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろろろろろろろろ

らうらうにやそむしもんゆひんんんとそとに
ふこのこははちやれり西天のこひひんんん
ななななななななななななななななな
らうらうらうらうらうらうらうらうらう
はははははははははははははははははは
まのまのまのまのまのまのまのまのまの
ののののののののののののののののの
いはいはいはいはいはいはいはいはい
の車くわういんんんんんんんんんんん
えええええええええええええええええ
せうせうせうせうせうせうせうせうせう
いいのうらうらうらうらうらうらうらう
らうらうらうらうらうらうらうらうらう
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

西園下ニ義曲付玉林作書

あや
孝奉水二年の秋乃比平二家ぬ海よおせし
たきききききききききききききききき
しんんんんんんんんんんんんんんんんん

Handwritten musical notation on the right page of an open manuscript. The notation consists of several staves of music written in a cursive, historical style. Red ink is used for some notes and clefs. The text is written on aged, slightly yellowed paper.

Handwritten musical notation on the left page of an open manuscript. The notation consists of several staves of music written in a cursive, historical style. Red ink is used for some notes and clefs. The text is written on aged, slightly yellowed paper.

か毎人入るにこそは
もくもく入るにこそは
してまゝに
月を
を
浦
は
は

月
車
す
の
か
か
か

いふもつたしはあふおれういふまはふいふまはふ
そころういふはまにあこれかやわがうのぬえは
ういふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
まのれいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
れいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
えんのかいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
りくれいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
そめいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

もいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

應安の歌よりいふは年内の節曲を記す
白狂曲のいふは狂歌を申樂也海卷下
西國下は、はにの作書りかむ觀せし
曲行にれは節曲を録し、まを二三かは
極樂の曲れ、まの近き年を先記す
百のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
曲のいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
と二三のいふいふいふいふいふいふいふいふ

のりきりまほりか
おらうりまほりか
一人きりまほりか
かきくこのぬえんは
おむとすとふ
こほとや
たかうせ
わやれ
ほあ
こに

慶長三年七月廿一日

母巻

玄文判



妙庵中
五音下



細川
十
二
傳書